

令和3年度評価・意見一覧表 (地方独立行政法人岩手県工業技術センター令和3事業年度評価)

II 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				各項目の平均点により評価
				県評価 A
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
震災復興への支援	A	A (4.0)	・具体的な企業への重点支援目標を達成したことはA評価に値する。今後復興の進展につれてニーズが変化するであろうから、より柔軟な支援見直しを図られたい。	A
企業活動への技術支援	A	A (4.0)	・技術相談・技術支援（依頼試験・設備機器貸し出し）における数値目標を大きく上回って達成したことはA評価に値する。	A
技術相談	A	A (4.0)	・新型コロナウイルス感染対策で従来の対面方式が困難な中でオンラインを活用するなど顧客満足度の高い多様な対応で目標を達成したことはA評価に値する。	A
依頼試験等	A	A (4.0)	・本センターの重要業務の一つであり、目標を上回る利用企業の高い満足度を得たことはA評価に値する。 ・顧客満足度調査の結果をどのようにフォローアップするかはケースバイケースなのかと思いますが、今回不満と評価された要因が特定出来ていないため、顧客ニーズに対応するという目的を果たしていく上で、今回の意見が項目評価する上でそれほど気にする必要がないものだったのかは少し疑問が残りました。（本日も説明のあったように要望があったからと言って実際に顧客ニーズに対応出来るかは別問題であるとは理解しております）	A

小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
設備機器貸出	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 本センターの重要業務の一つであり、目標を上回る利用企業の高い満足度を得たことはA評価に値する。 	A
戦略的な研究開発	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 長期的観点から技術ロードマップの設定し、かつ適宜見直しを図り、外部資金新規採択件数や成果報告における数値目標を達成しえたことはA評価に値する。 外部資金獲得が課題とお聞きしていた中、目標達成、それも大型の外部資金を獲得できたとのことで、素晴らしいと思います。 	AA
県政課題等解決のための研究	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 「岩手県科学技術イノベーション指針」に対応し、本センターの技術ポテンシャルを生かした種々の外部資金テーマを獲得し進捗したことはA評価に値する。 大型の競争的外部資金を獲得され、岩手県の発展に大きく貢献されている点が高く評価できる。 	A
企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究	A	A (4.2)	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業ニーズに対応した共同・受託研究を実施し、高い満足度を得たことはA評価に値する。 新規共同研究が目標以上に大きく推進され、高く評価できる。 	A

小項目	自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
技術シーズ 創生のため の研究	A	A (4.0)	・中期計画目標 50 件に対し、単年度（初年度）で平均を上回る 15 件の数値目標を達成したことはA評価に値する。報告においてすべての個別テクニカルチームについて説明する要はないが、より分かりやすく誤解を招かない表現をさらに工夫されたい（例 p. 16 特記事項③の「資化」などの表現）。	A
研究成果の 事業化支援	A	A (4.0)	・中期計画目標 150 件に対し、技術支援から具体的な商品化に結びつけた実用的な成果が単年度（初年度）で平均を上回る 41 件の数値目標を達成したことはA評価に値する。	A
知的財産の 創造・保護・ 活用	A	A (4.0)	・知的財産創出およびノウハウの普及で目標を達成したことはA評価に値する。休眠特許化しないよう上述の事業化強化にさらなる努力をされたい。	A
ものづくり 産業及び地 場産業への 支援	A	A (4.0)	・岩手県産業振興に直接資する地場産業への重点的な支技術援を行い、共同研究において目標件数を達成したことはA評価に値する。	A
ものづくり 産業への支 援	A	A (4.0)	・岩手県の中核産業へのさらなる技術的支援の高度化・振興に資する積極的かつ先進的な貢献は目覚ましい。また、本センターの強みである EMC ラボの活動は高く評価される。	A

小項目	自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
地場産業への支援	A	A (4.0)	・先進的な技術開発分野とともに地場産業支援の両輪をなす食産業・伝統産業などへの支援にも積極的に取り組み指導的役割を担った点は高く評価される。	A
産業人材の育成	A	A (4.0)	・時代の要請に応じた企業の技術力向上に資する各種講習会等を積極的に開催し、参加者に満足度の高いサービスを提供しえたことは高く評価される。	A
企業人材の技術高度化支援	A	A (4.0)	・人材受け入れ等による研修や講師・審査員派遣件数は目標を達成し、かつ12の研究会運営を支援する活動は高く評価される。	A
次代を担う産業人材の育成	A	A (4.0)	・次世代技術者の育成を岩手県と連携して実施し、またインターンシップ受け入れ等次々世代の技術者育成にも努めていることは評価される。	A
連携・協働の推進	A	A (4.0)	・県内外の関係機関（産総研・大学・公設試等）と積極的な連携交流を図り、外部資金新規採択件数においても目標を達成したことは高く評価される。	A
情報発信の推進	A	A (4.0)	・コロナ禍で制約はあったもののセンター内外との情報交流を多様な形態で実施し、中期計画初年度としては十分に活動したと思うが、さらなる発展を期待する。	A

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
組織運営の改善	A	A (4.0)	・外部状況の変化に自主的にかつ柔軟に対応し、業務改善につなげた点は評価される。	A
効果的・効率的な事務処理	B	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の状況が、計画で提示した指標を微小に上回ってしまった。しかし、勤務時間縮減の取り組みが積極的に行われていたことを確認でき、また勤務時間増加の要因が感染状況の拡大による諸影響など、やむを得なかった事情であることも勘案し、評価をAとする。(なお、自己評価でBとした事実も尊重し、Bに近いA評価とする。) ・超過勤務削減目標未達のためB評価とせざるを得ないが、要因の大半はやむをえないものであり、一方事務処理業務の不断の検証・見直しを積極的に推進し、外部人材の登用など職務負担の軽減を図っており、Aに近いBと評価すべきである。 ・コロナの関係もあり、超過勤務増はやむを得ないが、外部資金事業等の採択による労務量の増加は、今後採択が増えることによる労務量の増加が無いように予め作業手順書にし、専門分野でなくても作業が遂行できるような仕組みをつくることも今後必要と思います。 	B
職員の意欲向上と能力開発	A	A (4.0)	・職員の勤労意欲向上に資するセンター内外の表彰で高い評価を受け、多くの実績をあげたことは高く評価される。	A

小項目	自己 評価	委員 評価	委員コメント	県評価
環境・安全 衛生マネジ メント及び 職場環境の 充実	B	B (3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・重油使用量が管理指標を上回っての自己評価となっている。しかし、冬期低温状況下であっても「感染症対策」としての「換気励行」が求められたという避けがたい事情があったことを鑑み、令和3年度の重油使用量の増加はやむをえないと判断する。その他本年度計画に関わる取り組みは計画通り実施され、それぞれ目標達成をしていることも判断し、A評価とする。 ・労働災害・交通事故は長期間発生しておらず、職員の安全衛生マネジメント等も十分に実施されているとみなせる。重油使用量の管理指標が未達のため、B評価となったが、予想以上の冬季の低温と外部状況に対応せざるを得なかったためやむをえないのではないか。その他のエネルギー使用量は目標を達成しており、Aに近いBと評価すべきである。 ・重油使用量が管理指標を上回ったとはいえ、外的要因によるやむを得ないものであり、評価を下げる必要はないのではないかと思われたため、A評価とした。 ・B評価とされていますが、重油使用量等が管理指標を上回った要因は主に外的要因と考えられ、センター様に限らず一般事業会社においても同じ傾向になっております。評価項目の趣旨（職場環境の充実等）からすれば使用量の増加はむしろ必要な対応であったと考えます。 ・季節の気温の予測もコントロールも難しいかと思えます。資料を拝見すると数年に一度使用量が増えるようですので、仕方のないことのように感じました。 ・年次有給は、取得率を〇%と数字で具体的に表し取得進捗を可視化することも検討してみてもどうでしょうか。 	B
コンプライ アンスの徹 底及び社会 貢献活動へ の積極的な 取組	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の不正防止に対する取り組みや情報公開・発信に積極的に取り組んだことは評価される。 	A

IV 財務内容の改善に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 B	
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
外部研究資金の活用と自己収入の確保	A	A (4.0)	<ul style="list-style-type: none"> 外部資金獲得に向けた各種の取り組みや自己収入額総額で目標額を上回った点は評価される。 	A
経費の抑制	B	B (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> 経費の削減という達成目標・指標をふまえ、電力使用料金、重油使用料金、公用車燃料経費が前年度を上回ったことにより、自己評価通りBとする。ただし、経費の抑制に向けて努力ある取り組みをしたことは評価する。燃料経費等は、社会状況の変動に影響を受けるものであり、「購入額の多寡」のみだけではない成果指標・達成目標設定の工夫が必要かも知れない。 個別に管理指標を上回ったものがあり、Bとせざるをえないが、使用料金の高騰や外部条件の変化など自助努力以外の要因による面があり、Aに近いBと見做されるべきである。 重油使用量が管理指標を上回ったとはいえ、外的要因によるやむを得ないものであり、評価を下げる必要はないのではないかと考えられたため、A評価とした。 重油使用量の増加や単価高騰は外的要因によるものであり、その上で全般的な経費抑制により当期純利益 24 百万円を確保出来たことを考えれば「計画通り進んでいる」と判断して良いのではないかと考えます。 今後も購入品や電力等の値上げも続くことを想定し、経費の抑制と管理指数の計画見直しも検討した方が良いと思います。 	B

VIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項			各項目の平均点により評価	
			県評価 A	
小項目	自己評価	委員評価	委員コメント	県評価
試験研究機器の整備・活用	A	A (4.0)	・計画的な備品導入を補助金等交付によって積極的に進めえたことは高く評価される。中期計画全体でそれらの維持管理に要される予算確保に一層の配慮が期待される。	A
施設・設備の計画的な修繕・整備	A	A (4.0)	・今年度においては特段問題なく進捗していると思われるが、施設設備の経年劣化によるセンター全体に及ぶ空調や配水等の大規模修繕が要される事態に備えて、さらなる予算・人員確保に配慮されたい。	A
人事に関する計画	A	A (4.0)	・所要の職員定数確保や委嘱人材の導入を図るとともに、限られた人的資源をより有効に活用すべく職員の配分や能力向上を図った点は評価される。	A
<p><総合評価コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての年度計画について着実に取り組み、設定した目標をほぼ達成していることを評価する。初年度ということもあり、卓越した成果や、社会を先導する特筆すべき取り組み等の実績報告はなかったが、来年度以降、本センターならではの特色を発揮した事業とその達成成果を節に期待する。 ・第4期中期計画初年度の令和3事業年度業務実績を鑑みるに、限られた資源（予算・人員等）を有効活用し各種数値目標を達成し、かつ地域産業への積極的な技術支援の状況は充分A評価に値すると思われる。 				

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響下、様々な工夫をされ、岩手県の産業振興と技術発展に貢献されており、全体として高く評価できる。
- ・社会全体におけるコロナ慣れの影響もあるものと推察致しますが、前年数値目標の達成が難しかった中で、今年度は全般的に数値目標を達成されていることは評価されるべきものと考えます。
- ・自己で評価されたものと異なる部分はありません。岩手県で爆発的にコロナの感染者数が発生して大変な状況下にあってもなお、外部資金獲得の面で目標達成されたこと、ご苦労、努力されたことと拝察いたします。今後ともご活躍をお祈りいたします。